

委員への事前意見照会結果

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 朝倉 由希

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・2040年の目指す姿3つ「自信と誇りのふくい」「誰もが主役のふくい」「飛躍するふくい」はそれぞれ連動し高め合えるもの。2020～2024年度までは、新幹線県内開業をむかえ「飛躍するふくい」実現に向けた戦略を重点化していた。2025～2029年度の福井にとっては特に何が重要か→真のダイバーシティ推進による、多様性・包摂性のある社会の形成であると考え（「誰もが主役のふくい」に該当）。そのために、福井で低いという調査結果が出ている「寛容性」を高めることはたいへん重要。
- ・県民との意見交換で出ている「女性活躍、男性の家庭進出」という言葉は、現状出来ていない実態から出てくる言葉だと思うが、本来言われなくなることが望ましい。男女問わず自分らしく生きられることが大切。そのために固定化された役割を考え直す必要があることには大賛成。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・「1」に書いたこととも関連するが、これからの福井県に求められること（案）にある「多様性を楽しめる社会」は人口減少対策の面からも非常に重要。
- ・福井では職業選択の幅がなくキャリア形成が困難という意見が多いが、テレワークの普及等で多様な働き方は進んでいる。そのような働き方の実例を紹介して、福井に住みながら工夫次第でいろんな仕事ができ所得も得られるということを知ってもらう機会を作ると良い。（福井には仕事がない、福井では仕事ができないという「呪縛」を解き放ちたい）
- ・転出をネガティブにばかり捉える必要はない。社会人UIターン者は増えている。県内進学を選択肢拡大ももちろん重要であるが、進学を機に転出し、県外での学びや就業経験を経て、外部からの視点や様々なスキルを持って県内に戻りチャレンジ・活躍できる場があることも重要。そのためにも、福井に戻りたい、チャレンジできそう、と思える地域であることが必要（これも寛容性、多様性の重要性につながる）。

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

（専門とする文化政策分野から）

- ・文化政策については、県民の文化芸術への創造・享受機会を確保することで質の高い豊かな暮らしを実現する観点はもちろん、まちづくり、観光、国際交流、福祉等の観点も含め、福井県のこれからの豊かさを支える総合政策として推進していく。様々な分野との連携強化を進める必要がある。
- ・シニア世代の活躍が本県の特徴。社会的処方（地域活動等で表現の場や人とつながる場を持つことで孤立を解消しウェルビーイングにつなげること）としての文化の活用を、福祉・医療分野と連携し推進できると良い。
- ・地域に多様な視点を持ち込むアーティスト・イン・レジデンス等の推進。

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名：浅見 由紀

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・教育現場での保守的な考え、体制がまだまだ根深い。子どもに対する教育はもちろん、次世代を担う教育者を育成する環境をもっと整えていくべき。
- ・労働人口の減少に呼応して、労働者のスキルや仕事のクオリティが下がっている。企業と連携した人材育成の施策、専門技術を学べる環境を充実させることが必要。
- ・雇用保険法の改正で、自己都合による退職者が転職をよりしやすい環境となる。企業においては優秀な人材の流失を防ぎ、逆に取り込めるような施策を職業訓練機関と連携して進めていくことが重要。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・若い労働力の育成→若年層労働者の待遇改善、経済支援、資格取得のための教育環境の充実
- ・保育、教育現場の人材の育成→地域活性化の主軸となる子供たちを育てられる、親が安心して教育を任せられる機関の形成。
- ・医療機関、サービスの向上→国民健康保険の対象者への無料定期健康診断の内容の見直し
企業における労働者への健康管理補助金に対する行政の支援

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

- ・教育機関の充実、民間教育機関への支援 地域での教育支援体制の強化
- ・労働環境の改善 企業の働き方改革の支援→各種休暇取得、変形労働制、再就職支援
- ・地域の特性を活かした観光客向けの企画の遂行→嶺南の水産、嶺北の農産、奥越の恐竜、歴史的民俗文化財など

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 福井県医師会 会長 池端幸彦

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

「多様性」「包摂性」、「女性活躍」「女性の意志決定の場への参画」「男性の家庭進出」「長く福井に住む外国人材は大事」「地域の一員としての外国人との共生」「外国人が暮らしやすい社会の実現」「インバウンド」等々、色々な表現や言葉が散りばめられているとおり、やはり大きな柱の一つは、人種・性別・国籍・宗教・価値観などさまざまに異なる属性を持った人々が、組織や集団において共存している状態としての「ダイバーシティ社会の実現」ではないだろうか。これまで当県はどちらかと言えば「閉鎖的な県民性」というレッテルを貼られがちであったが、少し目線を変えれば、多少地域差はあるもののブラジルやアジアをはじめとする外国人移住者も決して少なくないし、元々女性有業率や共働き率も全国トップの我が県における女性の活躍は目覚ましいものがあるわけで、ダイバーシティを受容する風土がないわけではないと前向きに捉えたい。

当県が衣食住様々な指標による幸福度日本一、学業や運動等も日本トップクラスで子ども幸福度も日本一であることに、県民1人1人がもっと自信を持って県外・国外へアピールしていく前向きな姿勢こそが、真のダイバーシティを実現するための原動力になるのではないだろうか。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や他に重要と考えられる視点など

当県は、保育園の待機児童率の低さや、三世代同居率や持ち家率、持ち家住宅延べ面積の広さ、小中学生の学力や運動能力等、どれをとっても我が国トップクラスを誇る数字が示している通り、子育て環境としては決して悪くないはずである。しかし参考資料からもわかるように、若者、特に若い女性の県外転出率が高い点については、早急に真剣に対応を考えるべき課題であろう。この点からも、新たな観点として挙げられた『若い世代に選ばれる「地域スタイル」の構築』は、非常に重要な視点である。そして正にこれこそが、様々な価値観を認め合う「ダイバーシティ社会」の実現そのものではないだろうか。この推進の壁となっているものを、単に「県民性が・・・」と言い訳をしてしまえば身も蓋もない。県民1人1人がこの問題を自分事として捉え、「多様性」を認め合う大切さに気づき、官民一体となって地道にその土壌づくりしていくことこそ、今必要なのではないだろうか。

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

コロナ禍において、最初は閉鎖的で非協力的な状況に悩まされた時期もあったが、皆が正しいと思われる事を愚直に言い続けやり続ける事で、次第にその空気感を変え、結果的には世界でもトップクラスのコロナ感染者死亡率の低さを誇る事が出来た福井県民が、ダイバーシティ社会を受け入れられない県民だとは決して思わないし思いたくもない。理解し合える環境を地道に整え、実践し続ける事ができれば、自ずとその道は開けるはずである。そして、北陸新幹線敦賀延伸という100年に一度のチャンスを逃すことなく、大きく羽ばたける夢のある長期ビジョンを立ち上げ、メディアの協力も得ながら、それを県民1人1人に浸透するよう官民一体となり言い続けやり続ける覚悟が必要であろう。

そして当県のようなコンパクトな県だからこそ、今後取り組むべき政策として、いつでも誰でもどこでも繋がるWifi環境整備や行政サービスのデジタル化をはじめとした、あらゆる分野でのDX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進による「デジタル先進県構想」や、医療・介護・福祉・行政・交通・観光等をはじめとするあらゆる分野における、外国人に優しい多国籍言語サービスの普及を挙げてみたい。

ただどんなに素晴らしいビジョンを創っても、皆で行動に移さなければ、結局「絵に描いた餅」になってしまう。そうならないためにも、長期ビジョン作成後直ちに、その啓蒙と実践のための行程表を示した上で、その進捗状況を定期的に県民に開示し、必要な見直しを行いつつ、実践し続ける事こそが肝要である事を最後に付しておきたい。

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 今澤 ひかり

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・スポーツや文化面をもっと充実させる。大都市の美術館や博物館が行っているような企画展を福井でも行うと、それを目当てに福井へ来る人が多くなる。追加で観光もしてもらう。福井は一流の文化的な企画が多いと評判になれば、将来的に福井にとどまったり、移住したり、帰ってくる人が増えるかもしれない。また、人気のアーティストにサンドームでのコンサートをもっとおこなってもらう。とても評判がよいし、その日は電車が驚くほど満員になり、宿泊施設も満室になるので経済効果は大きい。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・女性は、出産、子育てのために仕事を中断することにより、キャリア形成の継続が途切れることに不安を感じている。円滑に復帰できキャリアも途切れなければ、出産、子育てする女性も増えると思う。そのためには企業の理解と協力が必要である。
- ・高い年齢層の人たちに、男女を問わず「家事や育児は女性が担うもの」という意識が根強く残っている。意識改革が必要だが、非常に困難に感じる。もっと広報番組などを活用して啓発活動をおこなっていくと、社会の流れだと認識して、意識を変えてくれるかもしれない。

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

- ・年を追うごとに教員のなり手不足が深刻になってきている。理由は、教員が多忙であり精神的にも負担の大きい職業であるというイメージを持たれているからだと思う。福井の将来を担う人材の育成という観点、ふるさと教育や地域に愛着を持たせる教育など教員が行う部分が多いのであれば、もっと教員の負担を減らす施策を考えていただきたい。教員の数を増やすために県独自の定数を設定したり、給与を都会の民間企業並みにあげるなどの工夫が必要だと思う。教員の魅力として、やりがいや生きがいを強調しても若い人たちに心には響きにくい。
- ・福井には様々な文化施設があるが、自動車が無いと行くことができないところが多い。公共交通機関だと便数が少なかったり運賃が高額だったりするため、中高生は自転車か家族の車での送迎しか交通手段がなく、せっかく興味があっても断念しなければならない場合もある。もっと中高生でも行きやすいように便数を増やしたり運賃を安くしたりして、自力でいけるようになれば、もっといろいろな経験を積ませてあげられるのではないか。

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名：笠原理紗

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・『自由度と寛容性』がテーマだと思っており、個性を認め合うことは“均一化”しないこと。
まずはお互いを知り合い、受け止め合うことが大切。方向性は定めてもやり方は様々。それが当たり前。選択の幅があることが大事。みんなと同じには違う。
- ・「自信と誇りのふくい」を実行していく為には、『揺るがなさ』を持つこと。独自性を大切に、流されず、丁寧に、先手を打って動いていくこと。後追いをするのではなくされる立場になる。早いサイクルは疲弊を生む、流行りに追いつこうとしない。流行りは廃る。その場しのぎにならない選択を。
それには目指す未来を明確にすること。目先に惑わされず、流されずの姿勢。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・『子育て』がキーワード。両親だけが担うのではなく、社会全体で育ち合っていける福井に。環境の整備として、女性の働きやすさ、男性の家事育児への参加。当たり前を変える。平等よりも対等。
保育従事者（働き手）の意識を高めることと同時に、利用者側や世間の意識改革、敬意をもつ存在であることを拡げていく。認識を変えていく。保育の大切さにフォーカスする。
- ・世代、市町、職業など触れ合う機会のない対象同士をかき混ぜる。その中で、子育て世代と若者やシニア層との接点もつくり出す。違う立場での掛け合わせで相互作用のなにかが生まれる。

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

- ・『かき混ぜる』政策。お互いを知り合うことから始めねば受け止め合うこともできない。認め合い、高め合い、みんなでなにかをやっていく上で、低いスタートラインやきっかけを作る必要性。
- ・生き急がない政策。揺るがなさで福井への愛情と愛着を持ち、既にあるものを大切に、磨けば光るものを見逃さないようにしてほしい。わざわざ新しいものや外側に目を向けず、内側を見つめ直す。人口減少は日本全体で起きていて、避けられないもの。その中で、きちんと「残していくのも・なくしていくもの」の選定をしていく必要がある。文化や歴史的なものは一度消えともう二度と取り戻せない。急ぎすぎるとその価値を見逃す。見極める時間がとれる政策とその時間のサイクルを。

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名：小藤 幸男（代理 伊藤靖朗）

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

・誰もが主役のふくいの実現

「地域社会の一員としての外国人との共生」や「障がいのある方の活躍や自己実現」が盛り込まれており、まさに「誰もが主役のふくい」の実現を目指していると感じられる。

現在、血縁・地縁・社縁といったつながりが弱まり、コロナ禍を経て人々の交流の機会が減っており、社会的な孤立が起きやすい状況になっている。

「社会的弱者の視点を踏まえて一人ひとりの安全安心を高める」ために、行政や関係者の取り組みだけでは限界があるため、これまで福井県民が育んできた互助や共助などの「地域の力」の強化が必要。多様な人を受入れ、人と人のつながりを大切にし、それを楽しめる地域をめざすことが地域への愛着や福井での暮らしに対する誇りにつながると考える。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

・若い世代に選ばれる地域を目指すことは大事な視点であり、魅力ある仕事の創出や子育てしやすい環境を整えること、文化芸術・スポーツ振興等を加えた総合的な地域づくりにより、魅力ある福井となっていくことを目指したい。

また、外国人や県外転入者等の価値観を尊重し、自然に受け入れ定着を促進する工夫が必要であり、そのことが地域の存続や活力人口の増につながると考える。

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

・選んでもらえる地域づくり。そのためには安心して暮らせる地域、持続可能な地域を目指していく。そのためには、子育てだけでなく親の介護等もしやすい環境づくりや、住民が活動意欲を感じ孤独を感じないよう地域コミュニティの活性化が必要。

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： キャサリン・コーネリアス

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・「福井を楽しんでいる大人の姿を子どもたちに見せることが大事」大人の姿は日本人だけじゃなくて、福井県に住んでいる外国人材も福井の生活を楽しめる姿もその外国にルーツを持つ子どもに見せることも大事です。外国人住民も日本の生活を楽しめることを見えないと、親の母国に戻る子が多くなって、福井県の人口や労働者数が減る。
- ・都会とのコンペティションなので、田舎での仕事の給料が低すぎるイメージがあって、都会の給料が高いから、多くの若者は都会に行く。それを除くために、田舎のQOLや充実感のイメージを高めるために福井県全体の最低時給を上げる必要がある。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・結婚するために、出会いが必要。でも、出会いのイベントより、自然に出会える場が必要。福井県には出会いの場があまりないので、大人向けの遊び施設も増える必要。飲食店だけじゃなくて、大人が大人同士と一緒にモノづくり、美術、エンターテインメントを楽しめる施設が大事。ワークライフバランスも必要。ずっと働いているなら、人間関係や恋愛関係を作る時間は全然ないので、残業が超少ない福井を目指した方がいい。

3 上記1 および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

- ・市役所または外国人住民が多い地区の公民館でコミュニティ日本語レッスンに力を入れるのが必要。（無料・安い日本語レッスンをやっている団体の支援が必要）
- ・各分野の会社との協力を得て、労働者が福井を楽しめるように、体調を崩さないように、子育てができるように暮らすために働き時間を再確認が必要（一週間日中で、次の一週間夜勤は体の調子や子育てにあまりよくない影響になる）日本人でも、外国人でも。
- ・SDGsには人権も含んでいるので、外国人材を利用している会社は人権問題を避けるように心掛ける必要がある。（例えば：会社が外国人のパスポート・在留カードを預かるのは犯罪で、人権問題になる。あとは同じアパートに3~4人を適当に配属するのが「住み続ける権利」に反対している可能性があるので、人権問題になる可能性もある。）福井県に恥をかけないように気を付けるのが必要！

委員名： 後藤 ひろみ

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

私自身の専門分野である、女性起業・歴史文化の活用の観点でお答えします。

- ・「自信と誇り」：地元プレイヤー起点の応援の中に女性起業も含めていただき、女性の発想で商品やサービスを提供できる雰囲気醸成したい。福井県内で行政（産業労働部）主催の女性起業家交流会はここ数年行われておらず、また女性起業家を育てようという動きも消極的な印象である。最近、“女性起業”といえば男女格差にとらわれない為のIT系企業を指すことが多いが、新幹線開業を迎えた福井においては、「ふくいらしさ」を盛り込んだ商品や飲食メニューの提案など、女性ならではの感性・発想で挑戦していただきたい分野がある。「なんとなく雇われて仕事をしている」女性に自分の発想で社会を面白くする「何か」を産み出す“夢”を与える機会を作れないかと思う。

起業にはお金も労力も必要で非常にハードルが高いことは自身が歩いてきて分かっているが、「夢実現」の面白さをこの福井で味わう旨味も実感している。これを伝え、女性が「起業家的発想」で福井というフィールドを見て、発想を楽しむ取り組みがしてみたい。

- ・「自信と誇り」：教育の中で地元愛を育みたい。そこには福井県民のアイデンティティを育む歴史教育が欠かせないと思う。自分が暮らすまちを作った先人達にはどんな思いがあったのか、そこにどんなドラマがあったのかを伝え、子供たちが「推し」「めっちゃ好き」な歴史上の人物を語れるくらいになれば最高だと思う。自分の先祖を誇りに思うことができれば、自分の中の誇りも育つ。その感覚で地元の先人を知って愛する活動を根付かせたい。
- ・「自信と誇り」福井には歴史に育まれた食文化がある。杉田玄白「養生七不可」、陰陽道の二十四節気・七十二侯、石塚左玄、浄土真宗の報恩講料理、数々の伝統野菜や郷土料理……etc. これらを現代風アレンジメントやメニューとして作りやすいレシピにブラッシュアップする取り組み離されていない。石川県の事例だが新幹線開業前に金沢市の青木クッキングスクールに事業として伝承料理の選択と料理のブラッシュアップ、作りやすいレシピ開発や料理指導がなされていた。特に「治部煮」という料理は「武士の献立」という映画を通して広報したうえで、様々な店が「治部煮ランチ」「治部煮定食」などを提供できる体制を整えていた。あくまでも一例だが、各県が地元料理をブラッシュアップしブランディングする取り組みを行っている中、福井県ではこれが各店舗任せになっているように感じられる。食文化も戦略的に仕掛けていくべきものだと考える。

・「誰もが主役」 女性に対する「こうあるべき」という呪縛が福井の中にあることを男女ともに自覚してこそ対策が打てると思う。自覚する機会をどう持っていただくかが先ずの課題で、自覚がないかぎり女性が生きにくい社会、つまり若い女性の流出が止まらない福井のままだと思う。上記問題について考える（気づく）機会を、講演やシンポジウムで作るのか、企業・公民館などに考える場を作っていくのか？ 手法は検討すべきだが、多くの人が気づかないまま女性に役割分担をしいて、それが「あたりまえ」になっていることが大きな問題である。

・「誰もが主役」結婚や出産を押し付けず、自らそれを望むためには教育が必要。中学や高校などなるべく早い段階で、妊娠可能年齢（出産適齢期）の話やそれを意識したライフプランニング教育をするべきだと思う。現代社会では男女ともに高学歴になってきており、社会に出て生活を安定させるだけの給与を得るところには（特に女性は）出産適齢期を超えるケースが多い。データに示された「結婚をあきらめる年齢」とも一致しているように感じた。社会が妊娠・出産に一番適した世代をフォローする必要があるように思う。福井県がこの年齢層を手厚くサポートし、出生の福井モデルを作ることはできないか。

優秀な人材が県外に進学し、経験や能力を高めることは大いに賛成である。福井との関係が切れないように働きかけることで、その高い能力を有する人物が福井に関わってくれるよう道筋をつけることが重要だと考える。若年層、特に子育て世代のＩターン・Ｕターンが話題となるが、豊富なキャリアと人脈を持った定年後の人材が福井と都市部の二拠点生活、もしくはＵターンを選べる政策があれば、福井の文化力、経済力、思考などを高めてくれるのではないかと思う。

・「飛躍する」 豊かな食・農林水産業について、社会のニーズをとらえた戦略的・地産地消ブランディング計画が練られているか？ といつも考えている。例えば、富裕層やインバウンド需要に応えようと思えば、そのニーズを満たす食材が必要になる。ワインを提供するならワイン用ブドウ栽培に適した場所はどこか？ つまみに求められているのがチーズやオイスターならそれが生産できるのか？ 健康長寿をうたうなら、それを支える福井に特化した食材（例えば薬膳に対応できる漢方薬適な食材や健康茶に応用できる食材）を育てているのか？ 少子化を考えるなら妊活食品は福井で生産できているか？ ニーズ・気候・地質、様々な観点から、これからの福井を支える食材も再認識・リストアップ・選択・ブラッシュアップ・生産体制の強化など、戦略的に対策を打つべきではないかと考える。

・「飛躍する」 民間主体「ちょい足し応援」に起業家精神を育むこともプラスしてほしい。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

・福井から他県に人を流出させないという発想より、他の地域の中で人生を体験し、キャリアを積んだ人材をどうこの福井県に戻すかが重要だと考える。ずっと福井で暮らしていると問題点が見えない。男女共同参画的な視点と行動を身につけて帰れるように仕向けたい。県外大学に進学した方には研究対象やフィールドとして福井を取り上げていただけるよう、ここに何らかの助成をつけたい。

子育て段階にある世代には、「子育てするなら福井」を打ち出し、リモートワークなどに助成をつけることはできないか？ 定年退職後にそのまま都市部暮らしをするのか、福井にも軸足を置くのか？という選択に対しても働きかけをしたい。様々な発想で福井での暮らしの面白さを発信してもらい、それに共感して暮らしを楽しめる風土を醸成できないかと考える。帰りたい、帰ってもいいかなと言うタイミングを逃さないサポートを打ち出し、人材をゲットしたい。

・自然豊富な福井は自然体験がウリになると思うのだが。まだまだそれを居住・観光・教育と連携させてビジネス化している事例が少ないように感じる。成功事例を作り、これを「見える化」して仕事を創出できないかと思う。

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

- ・キャリア・人脈を持った人材のIターン・Uターン促進。
- ・起業家的視点を持った人材の育成、育った人間の夢語り・夢実現のサポート。
- ・歴史的素材を分かりやすく地域の人に伝え、そこに暮らす人々の自信と誇りにする。誇りに思った歴史を生涯学習、教育、観光と展開していただければ、なお良。

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 佐竹 正範

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・次期・長期ビジョン実行プランの検討の観点（案）の前提について、長期ビジョンの基本理念は「安心のふくい」を未来につなぎ、もっと挑戦！もっとおもしろく！」で、その具体の目指す姿が「3つの姿」では有るが、基本理念に書かれている「3つの姿」の前提の「安心と信頼の社会基盤」が抜けている。
- ・「あたりまえ」と思っている社会基盤（インフラ・食糧・交通・医療・教育・福祉など）なくして3つの姿は成し得ないし、社会基盤が整備されていなければ人口流出にもつながる。定住人口が減少しても「安心と信頼の社会基盤」を維持できる体制含めた整備が必要ではないか。
- ・最重点化プロジェクトは、デジ田交付金で国が示している「Well-Being 指標（地域幸福度指標）」(<https://well-being.digital.go.jp/>) を活用してはどうか？ 弱い部分を補う政策立案や他県と差別化して幸福度で選ばれる県として成立するための指標を見つけ出すなど。
- ・全体的にソフト面を中心としたウワベの論点が多いと感じる。行政しか出来ない本質的な領域についてもしっかりと、重点化プロジェクトや政策の柱ごとの重点施策 KPI に含まれていくことを願う。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・都市圏以外のどこの県も同じ課題で、同じようにアプローチしている。全体のパイが減る中で、全国で若い世代の定住人口の取り合いをしている。
- ・年齢別定住率と年代別Uターン比率を経年で見れないか？ 今の20代後半の定住率や、Uターンの比率についてどうなっているの確認が必要。もしかすると、昨今の地方回帰思考で、昔に比べて上がっていないか？
- ・福井へのUIターン者（希望者）の、その理由に勝ち筋が有るのではないかと考える。
- ・長期ビジョンに掲げている、人口が減ることは前提として、交流人口での目標達成を目指すほうが現実的ではないか？ 別添の資料の通り、地元を楽しんでいる人や観光客との交流がある人は幸福度が高い傾向にあり、県民が観光に関わる施策を打つことで交流人口の増大にも繋がり、同時に住民幸福度も上昇する。
- ・県外からの養子縁組や里親制度を推進してみてもどうか？（事業継承の課題対策にもつながる可能性あり）

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

- ・「要望を叶える」政策ではなく、「希望を与える」政策であってほしい。
- ・橋本左内、横井小楠、由利公正がそうであったように、地域において外にも売れる価値創造（一次産業や伝統産業など）を維持拡大し、また一步先の新たな価値創造をしていくための「産業を育てる」政策であってほしい。
- ・「まちづくり」は「人づくり」。今後のグローバルな社会において、世界に羽ばたき、世界とつながる地域人財育成（もしくは確保）が肝となるを考える。
- ・人口減少しても地域住民が安心・安全に暮らせるように、エッセンシャルワーカー（生活必須職従事者）業務の早急なDX化政策が必要と考える。（特に公共サービス ex ゴミ収集、水道などのライフライン維持など）電気、水道工事士なども不足していくと考える。

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名：高木 薫子

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

・「ふくいらしさ」を謙遜せずに主体的に発信できるようになることが大事であり、そのためには県民がもっと楽しむことが重要ではないか。と、あるが、発信することの大事さは、例えば、都会との賃金格差を埋めることは大事な視点だと思うが、それとともに、実際に生活する上での通勤時間や物価や家賃など、生活の質を比べると、地方（福井）のほうが過ごしやすいとも聞く。住みやすさなどをデータをもとに、進路を考える高校生やその保護者、大学生なども含めて、社会に広く発信することが必要だと思う。

そこで、発信の大事さで一度切って、県民がもっと楽しむことが重要ということは、そのあとにつなげるほうが良いのではないかと思う。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

・男性の育休の取得率が上がっていることは、よい傾向に向かっているように思う。反面、女性に比べると、期間も短く、まだまだ十分とは言えない。取得することで、給与は三分の二程度になり、賞与への影響が出る場合もある。また、代替者ではできない業種もあると聞く。社会全体で子どもを育てるという意識をより醸成させ、待遇面での充実や企業への補償、また、時短やリモートワーク、毎週決まった曜日や必要な日に単発で取れるなど、取得しやすい働き方の選択肢が増えることも必要なのではないか。男性がより家事や子育てをしやすい環境を作り、両親が協力して子育てを楽しめる雰囲気をつくり、発信することが、結婚や子どもを持ちたいという雰囲気を作っていけると思うので、重要な視点だと思う。夫婦で育てることが当たり前の社会になってほしいと願う。

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

- ・福井の教育力という点では、学力は全国でも大変優れているが、一方で、社会に出てきた人たちを指導することの難しさに直面している。指導する立場の人が研修に行ったりして、できるだけ相手の立場にたった育成を心掛けているが、相手の気持ちを汲むこととか、コミュニケーション能力や忍耐力、責任をもってやり遂げようとする力などが苦手な傾向がある。学校や家庭での学力以外の力を育てる教育力の向上が、仕事を続けられる力になり、人材不足の解消の一助になるように思う。人口が減っていく社会において、社会人になった人材が、責任をもって仕事をし、困難を乗り越えて成し遂げる達成感ややりがいを感じられる素地を育てていくための道筋を示すことができたらと思う。教員の働きかた改革を進めるためには、様々な立場の人が関わる必要がある。また、家庭教育をサポートすることも必要なことだと思う。社会全体で子ども達を育てていくシステムができるとよいと思う。福井に限らず、人材育成に悩むところは多いので、福井モデルを提案できるとよいのではと思う。

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名：舘 直宏

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・「ふくいらしさ」や「自分らしく」というように「らしさ・らしく」という言葉で多くの人を包み込むことができる一方で、曖昧かつ理解しにくいように感じられます。「強み」「魅力」などもっと具体的にイメージできる言葉が使われるといいのではないかと思います。
- ・年齢や性別などを問わず誰でもわかる言葉をできる限り使うことが大切だと感じます。（ローカル・ゼブラ企業、エッセンシャルワークなどできるだけ日本語表記で）
- ・「誰もが主役のふくい」に女性、外国人、若い世代、シニアの表記はあるが、男性や子どもの表記もあるといいのではないかと思います。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・若い世代が県外転出していくことを防いでいくことは福井にはない学校や職業が都市部にはあるなどして難しいと思う。県外転出を防ぐのではなく、一旦県外に出たとしても福井に帰ってきたくなる施策に力を入れて、都市部で養った力を福井で活かしていくことができる環境が大切である。
- ・県外の子育て世代の県内移住をより強化していくことで将来的には人口減対策となり、子どもたちが結婚や子育てに憧れを持つことができる施策が今のところないので、移住促進と結婚・子育てのイメージ向上に力を入れていくことに期待したい。

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

- ・ 2040年に向けて取り組みを進める中で、重点的な取り組みや対象者がもっと明確になることでよりイメージしやすい長期ビジョンになるのではないかと思います。県庁として表現が難しいとは思いますが誰がどうなっていくことでビジョンを達成できるのかできる限り明確になることを期待します。
- ・ 2040年に福井県の主力になっているであろう今の子どもたちに向けた取り組みを多く盛り込んだビジョンにしてもらいたい。そのためにも子育て・教育の充実を中心に仕事と家庭での活躍できる人材の育成に今から力を入れてもらいたい。そのキーパーソンは「父親（男性）」である。女性活躍だけでなく両輪での推進・支援の充実が必要である。

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 田村 洋子

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

・「ふくいらしさ」を大切に、とありますが、県民が福井の良さは何かを理解し認識しているのでしょうか？

地域との関わりが深い県民であることが重要であり、誇りをもって日常を過ごすことの大切さを実感できる視点が必要と思います。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

・検討の観点（案）が、まず出生数の増減である、県の施策の第1位としては誤解されるように感じる場合があります。（若い女性は県外に出ないよう、福井県内で結婚、子育てが重要である）

出生数の増は、今後も課題ではありますが、人口減については、転入先として、移住先として“福井県”を選ぶことも考えられます。社会減（転入、転出）に対する課題となりますが、それらの施策の検討の必要性を思います。また、その施策の中の一つとして出生数の重点を位置づけていくことが良いのではと考えます。

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

- ・女性活躍は、男性の活躍にもより良い影響を与えることになると思います。
- ・所得が上昇することにより、女性にも余裕ができるようになり、女性活躍の機会も増えることでしょう。
- ・男性（特にシニア世代）の家庭進出も必要だと考えます。

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 松原 ゆう

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

■産業・労働分野

- ・住民の生活を支える仕事（介護、保育、医療、教育など）に従事している人へ、その能力に見合った待遇改善が必要

■教育分野

- ・教員の働き方改革を進めることが教育の質の向上につながる

【意見】

医療以外の「介護」「保育」「教育」に関して特に急務と感じる。また、「その能力に見合った」とする必要さえないように感じる。「能力が伴わないと成果が出ない」という現在の市場経済としてのオーソドックスな成長分野ではないため。

★最も大切なのは人的リソースのアロケーション（配分）の最適化

*参照：COTEN RADIO【番外編#93】株式会社COTENの資金調達～ベンチャーキャピタリストと語る現代の呪術～

37:00 あたり～

■まちづくり・観光・文化スポーツ・交通分野

- ・人口減少による将来的な、地域コミュニティや社会インフラへの影響を住民と共有し、課題意識を共通認識化するべき

■教育分野

- ・インターネットを安全に楽しく利用するには、大人の意識改革も必要。

【意見】

大変重要なことだと思う。「知らない」から意識をもてないだけ。啓蒙活動は、信頼性や影響力のある民間と協働して行うべき。とはいえ、著名人をただ起用すればいいわけではない。県民にとって身近に感じることができ、かつ信頼性や影響力のある存在と協働すべき。

【いいと思ったこと】

- ・「地元プレーヤー起点の挑戦を応援」「民間投資を後押し」

- ・「ローカル・ゼブラ企業を粘り強く育成」

【その他気になったこと】

- ・「さらに多くの人を呼び込む」？
- ・「誰もが主役」「みんなが自分らしく輝く」？
- ・「謙遜せずに主体的に発信できるようになることが大事」？

★どうしても「当事者」に対するアプローチや課題設定が多いように感じるが、アプローチすべきは「当事者」ではなく、彼らを取り巻く環境や仕組みの方。また、一見関係のないかのようにみえたり、反対側にいたりするマスの人たちに対する取り組みの方が功をなす場合もある。（「女性の生き方改革」であればアプローチすべきは「男性の意識改革」など）

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

「これからの福井県に求められること（案）」は主に賛成。

ただ、「関わりしろ」に関しては既にかなりできている部分であると思うので、次期の戦略としては継続して？という意味？

★基本的には「場」と「人」が最適に存在すればいい
（直接的なアプローチはあまり意味をなさない場面が多い気がする）

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

- ・人的リソース配分の最適化に繋がる仕組みづくりや改革（福井県独自のものだとおよい）
- ・民間と協働した啓蒙活動（意識改革、自然発生的な生涯学習の仕組み化など）

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 御子柴 北斗

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

【観光まちづくりについて】

- ・ 観光まちづくりでは、民間の投資と行政の投資が連動し、面的なムーブメントとなっていくことが理想だと考えます。また、どのように資金調達するかは重要な課題で、まちづくり小浜の場合、地域金融機関の全面的なサポートが大きいと感じています。行政として金融機関の支援をいかに引き出すかについても検討が必要だと考えます。
- ・ 観光まちづくりを担う企業の一つとして、次々と出てくる地域課題に会社がついていくのが厳しく、自分たちだけではやりきれないと感じています。地元企業や市民が観光まちづくりに投資できるような仕組みができないかと考えています。

【教育・人口問題について】

- ・ 人口対策の部分とも重なりますが、全体的に「子どもに福井に居続けてほしい」というニュアンスを感じます。私だったら、子どもにはこの福井の豊かなフィールドの中で伸び伸びと学んで生きる力を身につけて、子どもが望むのであれば外の世界へ羽ばたき、その経験を地域にフィードバックしてほしいと考えます。
- ・ 今、人材の流動性が高まっており、ずっと同じ会社にいることが人材にとっては必ずしも理想ではありません。人が流動する中で、人が集まってくるような地域が理想だと考えます。

【産業育成について】

- ・ 「都会並みの給与水準」というのには違和感を感じます。企業は給与を出し渋っているわけではなく、出したくても出せない現状があると思います。いかに付加価値が高い産業を育てていくかが課題で、最先端の技術を取り入れるだけでなく、その地域でしかできないことを追求していくことも重要だと思います（例えば、小浜の箸産業は、ノウハウが集積し、全国的な販路を固めているため、高い利益率を確保しています。）。また、「都会並みの給与水準」よりも、「都会以上の生活水準を実現できる」福井県を目指すべきだと考えます。
- ・ 「チャレンジフィールドとしての魅力を高める」ということはとても良いと思います。福井は地域課題のチャレンジの場としてとてもフィットしていると思います。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・ 大学等進学時や就職時に地元を希望しない主な理由として挙げられている、「志望との不一致」や「他県へのあこがれ」は仕方ないことだと思います。若い人がチャレンジしたいという気持ちは当然で、新卒でのUターンよりも、社会人経験を積んだ人材のUターン・Iターンのしやすさを考えるべきだと思います。
- ・ 「福井県は地域の寛容性が低い」というデータは興味深いと思います。Uターン・Iターンを考える上で、「寛容性」というのは重要なキーワードだと思います。「寛容性が日本一高いローカル」を目指すのはどうでしょうか。
- ・ 出会いの機会の創出は重要だと思いますが、民間が強い分野だと思います。民間サービスの活用を行政として後押しする仕組みがあると良いと思います。
- ・ 参考資料2 52ページのデータは興味深いと思います。目指すものが「人口の社会増減の均衡」であるのであれば、①県外出身者の大卒で県内に就職、②社会人の転出、③社会人の転入があると思います。特に③をいかに増やすかが重要だと思います。

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

- ・ 観光まちづくりの面的かつ長期的な取り組みに対する幅広い支援。地域やプレーヤーの意見を取り入れた計画策定の仕組み。
- ・ 人が流動する中で、いかに人が集まる地域をつくるか。社会人経験を積んだ人材のU・Iターンをいかに高めるか。そのために「地域の寛容性」の向上を図るべき。

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名： 宮田 幸一

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

・

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

・ 県民人口が減少進むなか、農業現場においても同様に農村集落の人口減少、少子高齢化、若者の流出が進行し、事業継承・新規就労などスムーズな世代交代等がなされていない。県内の高校、大学には農業を主体とし学べる環境も整備されていることから、uターンiターン等も含めた学生が地域農業に携わるための支援の拡大。同時に、外国人など多様な人材確保や、地域資源の保全や集落活動が活発化するための支援を県、市町と連携しお願いしたい。

・

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

・

第2回福井県長期ビジョン推進懇話会 事前照会意見

委員名：八木 誠一郎

1 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した検討の観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

①『自信と誇りのふくい』について

- ・持続的な地域の発展には、県民自らがプレイヤーとなり、主役となって、新しい県都をつくっていこうという意欲を高めていくことが重要。そのためにも、地元プレイヤーの挑戦を下支えし、前向きな民間投資を後押ししていく仕組みづくりが大切。
- ・文化・スポーツなど人が行き交い、楽しいと感じる場の一つとして、「アリーナ構想」を提案。

②『誰もが主役のふくい』、『飛躍するふくい（ローカル・ゼブラ企業）』について

- ・「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」として、女性の創業に着目。※前回懇話会にて発言
- ・「ローカル・ゼブラ企業」を育成する中で多くの女性経営者をし、ジェンダーギャップの改善と持続的な地域活力の向上に繋げていくことが重要。

③『飛躍するふくい』について

- ・今後5年間は、持続的な賃上げによる福井県経済の好循環が実現できるかの重要な期間。物価上昇に伴う取引価格の適正化と企業の収益力強化に向けた足元の支援により、賃上げできる環境をつくと共に、DX・GX・事業承継など企業の事業変革に対する集中的な支援が重要。

2 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の検討の観点（案）について

これまでの県民との意見交換等を踏まえて事務局が整理した次期・人口減少対策戦略の体系と重視する観点（案）に対するご意見や、他に重要と考えられる視点など

- ・若者流出の阻害要因を解消するため「魅力的な雇用の創出」、「子育て支援」、「UIターン・移住支援」は継続して推進すべきであるが、若い女性の県外流出が好転しない現状を再認識すべき。
- ・要因の一つとして、三世代同居で共働きといった福井県の伝統スタイルにアンコンシャスバイアスが根付き、それが現代の若い女性にとってはマイナスの評価になっている面もある。
- ・観点（案）にある新たな視点の「若い世代に選ばれる地域スタイルの構築」はとても重要。福井スタイルの陰の部分に目を背けることなく、危機感を持って企業も社会も変わらないといけない。

3 上記1および2の検討の観点（案）等やご自身の見解を踏まえて、今後5年間で実施すべきと考えられることについて

委員各位の専門的立場から、福井県がさらにステップアップするために取り組むべきと考えられる政策について

- ・「県都グランドデザイン」に基づく官民連携によるプロジェクトの推進、「アリーナ構想」の実現。
- ・持続的な賃上げによる福井県経済の好循環が実現するかの重要な期間。賃上げに対する企業の対応力強化に向けた足元の支援と、企業の事業変革への能動的な取り組みに対する集中的な支援。